

発行所
津 奈 木 公 民 館
芦北郡津奈木町
電話(78)3111代
印刷所 旭 印 刷
電話(水俣)4101番
○右の題字は「徳富蘇峰さん」
の額を写したものです。

津 奈 木





町民講座に「パッチワーク」夢を追って!!

本年度より町民講座に「パッチワーク」が取り入れられた。今一番人気も高く人数も多い講座だ。

昼間だけの講座と手作業だが欠席者はいない。夜にも出来るようになる、働いている若いお母さん方も習うことができて大へんいいんだがと思うが、布切れの余り物とか、切れ端を活用してスバラシイ、テーブルクロスや手さげ袋、小銭入れ、品物の敷物など、工夫すれば大きいものから小さいものまで、それはそれは華麗な珍しい模様の品物等製作することが出来る。

自分の夢を追うようにして進められるのが魅力のようだが、熱心に頑張っておられて、はたから見ても楽しそうに感じられる。

秋は好きな季節の一つだ。うだるような暑い夏が過ぎ十月下旬ともなると体にふれる風がひんやりとしてこころいい。しかし、農作業はいまだ稲刈はチェックする、毎年早く終わらないかと同じ事を考える。それはそうと、昨今便利な世の中になった。今刈取った稲が明日は米になっている。昔はちがった。皆様も承知の通り、田植するにも数軒集まり共同作業をした。

農業も一つの共同体であったと思う。それゆえに近所を大切に助けあう心があつた。夜はテレビが無い時代だから湯飲茶わんに焼酎をつぎ世間話に花を咲かせる。今は会話が無いとよく言うが、会話が少なくなったのは当然だと思ふ。話すことをさまたげるテレビが有る。テレビの方がはるかにおもしろい。困ったものだ。非行も年々低年齢化している。アメリカに二十年遅れで追いついて聞きますが、自分なりに何かできないか時々考える。しかし、何もできない。人間一人ではなく昔も今もやはり共同体で生活している事を再認識する。

人生一生に一度、楽しくのんびりした心で暮したらどうでしょうか。

(伊藤 亮記)

一言

親子で挑戦



十月十二日(日)、風子サークル活動会員と、お父さん、お母さんが「古代ペダント」作りに挑戦しました。指導には県立博物館からおいで頂き会議室で作り方の説明を受け、長方形の石に下書きをしてから玄関前で石をレンガで削りながら形をととのえ、耐水ペーパーを使用して水の中で仕上げの仕上げは光沢がまし、とてもなめらかで、色々のかわいいペンダントができ子供達は大切にしています。



つわぶきセミナー (十月二十一日)

現地見学研修

今回は熊本テクノポリスセンター、ここは最新の設備と高度なシステムを駆使して情報の提供・人材の育成・広報交流などを行っている施設で、ロボットが六車さんの似顔絵を書いている所を全員で見学しました。RKKコンピュータでは住民基本台帳作成の方法等を見学し世界ハンドボール大会のメイン会場「パルクドーム熊本」を見学した後、陸上自衛隊北熊本駐屯地の施設見学や隊員と同じ昼食を食べることもできました。バスの中で参加してよかった等の話し声聞き安心しました。



油 彩
「窓」 一九六四
境野一之作

魔法をかけるような月明かりの街の扉。静かな呼吸でこの世界を見つめている。ずっと長いこと孤独に耐えてきた。一人で寂しい夜を過ごしてきた。未来へと向いている扉が開くときは一層……。誰かと肩を寄せて共にいたいと思う。

庁 舎 美 術 館 (74)

地区名	竹	染	浜	桜	町	新	古	大	中	古	倉	内	上	川	福	平	平	日	日	小	丸
種 目	中	竹	崎	戸	中	川	川	泊	尾	尾	谷	野	門	内	浦	辻	下	当	添	木	岡
男子ソフトボール	13	13	5	13	13	13	17	13	17	5	21	5	20	5	19	13	17	13	5	19	17
女子ミニバレーボール	13	17	19	5	13	13	13	13	5	17	20	5	21	13	17	5	19	13	17	5	13
野 球	12	16	19	12	12	12	12	20	4	4	18	18	16	12	16	16	4	12	12	4	0
競 舟	15	15	15	15	3	15	15	20	3	3	15	18	15	15	17	15	17	19	21	15	15
陸上競技大会順位	17	5	9	14	15	19	15	6	13	18	10	7	8	20	1	12	3	4	2	11	21
総 合 得 点	58	78	71	53	48	56	64	82	38	33	86	61	86	47	90	59	76	75	75	54	46
総 合 順 位	13	5	9	16	17	14	10	4	20	21	2	11	2	18	1	12	6	7	7	15	19

平成九年度町民体育祭 (総合得点表)

今、ここに四十才という人生の曲がり角にいます。
今までは二十代・三十代という若さの中で、自分の存在を有意識せず、無我夢中で年を積み重ねて来た感じがします。
でも近頃は、フツと溜め息が出やすくなっているようです。
まだ人生に疲れるような年ではないのに、何かが自分に語りかけているようなんです。ともすれば物事が思いどおりにいかないと「運が悪かった」といって片付けてしまふ傾向がある。
そこでまた、運命の中に天命と宿命があるといわれます。宿命は自分で動かせないものであり、天命は、「人事を尽くして天命を待つ」

とあるように自分の力で打ち開いて行くことができるものであります。私にとって勝敗を背に負いながら自分への天命として来た現在、ここ四十才にして天命への情熱が遠ざかって行くような気がします。宿命に委ねて、自分の思慮が足りないとか、もう一步の努力が足りないとかを、運命のせいにしてしまいがちであります。
たとえば「私にはどうしようもない」「今年は何だか」「などと言いがちな、結局自分の努力が足りないのを棚に上げてしま

40才にして気持ちの葛藤

宮嶋弘行

ただ今まで述べてきたことが、今後の私の人生かと思うと寂しいものがありますので、ここからは話を交えていきたいと思います。
今年、私にとって人生の大きな一ページなる最高の出来事がありました。「世界龍舟選手権大会」

出場という、これには「津奈木海龍」チームのなかで苦悩と喜びが凝縮されています。
津奈木町から世界へ、この年齢にしてこんな大きな体験をさせて頂いたことは、今後自分への心の糧として、私なりに後世への若人にサポートを惜しむ事無く、先輩達に感謝し、もっと自分自身の研鑽に努力できる事と思います。
最後になりましたが、年は四十才でも気持は二十才という自分自身への葛藤の中、限界と勝負にチャレンジし、人との「ふれあい」を楽しみながら、新しい次代への継承にがんばって行きたいと思っています。
「住みたくなる津奈木」へ……

ここに、こんな人が……

本が大好き

米田桃枝さん(83)

(桜戸)

桜戸地区にお住いの米田さんは大正三年生まれの八十三才ですが、色々な事にチャレンジしながら毎日とても忙しく過ごされています。ゲートボール、詩吟、大正琴、そして暇な時間をつけては好きな読書にと親しんでいます。

「本は好きで、娘の所に行ってもテレビだ



けではつまらなくて、近くの本屋さんに出かけては何かな探してみよう」と話して下さり、また病院行きなどのように待ち時間がある時には必ず本を持っていかれて、読書をされているようです。お好きな本の分野をお尋ねしたら「時代もので『鬼兵衛科帳』は何十冊か読みましたが、何でも読

みます」とのこと、興味がある本なら分野にはこだわらず読まれているようです。詩吟が週に一回、大正琴が月に二回、それにゲートボール、この他に、あけぼの苑への週に一度(金曜日)のデイサービスにも参加されているようで、毎日がスケジューリングのよう。忙しかつて「すもん」とおっしゃる米田さん。今月開催されます「ふれあいまつり」での発表会では、大正琴の演奏の中で、唄と詩吟を担当されるようですので、楽しみにお待ち頂けたらと思います。(澤井記)



津奈木小だより

!!楽しかった。スクールコンサート!!

十月一日、つなぎ文化センターで、津奈木小学校のスクールコンサートが開かれました。ピアノ、フルート、バイオリンのアンサンブルに歌を加え、四人のお姉さんの素敵な

「すいねー」すてきだねー「私も弾けるようになったいな。声。リードしてくれるお姉さんの巧みな話術にすっかり楽しくなり、手

短歌

本郷武雄選

敬老会の席につらなり出合ひたる
百歳の唄の瞳美はし
西 滋子

肥後狂句

野田浦子

にぎやかに孫の手をふり帰りゆく
せみのぬけが置きみやげして
白浜美和子

今更 プロポーズとはいいい気なも
今更 嘘は言わんち言われても
今更 何んは言うとかもう時効
今更 何んは言うとかもう時効

行く日々はかくも早しか夫に添い
今日金婚の席につらなる
福田八重子

今更 好きと言っても困ります
今更 好きな 痩せた肥えたや死
今更 何んは言うとかもう時効
今更 何んは言うとかもう時効

約束を守りましたと息子はつげぬ
旅立ちの日の吾の言葉を
柳迫いづも

今更 何んは言うとかもう時効
今更 何んは言うとかもう時効
今更 何んは言うとかもう時効
今更 何んは言うとかもう時効

花揺れ夕日に映ゆる
沢田しずを
一笠(初夢 元氣よき

今更 何んは言うとかもう時効
今更 何んは言うとかもう時効
今更 何んは言うとかもう時効
今更 何んは言うとかもう時効

川原の石にうかぬさき一羽片足
立ちに何思ひいむ
寺本ツルヲ

今更 何んは言うとかもう時効
今更 何んは言うとかもう時効
今更 何んは言うとかもう時効
今更 何んは言うとかもう時効

●薩摩街道(往還)について

今、国道三号線を熊本方面に車を進めれば一〇分間で通過する津奈木町も、昔は二時間位もかかっておつたかと思えば、道も自動車も有難いと思ふものである。国の制度が確立すれば、交通網の整理が必要で、徳川幕府が諸大名に参勤交代を義務づけたのは「武家諸法度」により諸大名が幕府に背かぬよう夫人を江戸に人質にとり忠誠の証としたもので、寛永二年(一六三三)に参勤交代が始まり文久二年八月(一八六二)に事実上取止めになったが、其の間に二回つづつ往復したものとすれば四五回往來したことになる。江戸時代の九州における主要道路は小倉から長崎までの長崎街道、熊本から大分に向う豊後街道、長崎街道から熊本を経て鹿児島へ達する薩摩街道、小倉から大分、宮

崎を通過する日向街道、そして津と久留米それぞれから西国郡代役所のある日田に行く日田往還等であるが、参勤交代の前期には海上が多く利用され、陸上に比重が移つたのは薩摩藩主二代吉貴の頃からである。ちなみに寛永二年(一六三三)の薩摩藩の大名行列は乗馬二〇騎、小姓二〇人、陸之者(徒歩)二〇〇人、小者、中間、道具之者(一〇人)、又小者八九〇、計二四〇人となつてゐる。前述の如く薩摩街道は熊本の札辻を起点としてゐるが、幕末の頃伊能忠敬が文化九年(一八一三)二月に測量した記録が熊本永青文庫に保存され「分度記」として道筋と海岸を測量した実績が今に残り津奈木町に於いて再現されつつある。

薩摩街道の事は町誌上巻に詳しいのでここでは省略するが、今古の道をさがす理由として、一、薩摩街道は町内の古い道では広い道即ち往還であった。二、街道筋には宿場、店等があった。三、街道の近くに社寺があった。四、道筋には道標、樹木(一里塚)等があった。五、街道は道であつて昔万人が往來したので海中ではない。以上より昔の事を知る為には地名を知る必要があり、昔の地名をさぐるにははつきりした土地の利用即ち道路等がわかり易い、此れを現在の地形に合わせてみたいものである。

本年度第二回目の会議を開催し公民館の活動や公民館報、生涯学習推進状況や、そのまとめ等について話し合いました。

公民館の運営心

モデル公民館推進のため現在活発に事業がなされていくが、個々の団体の推進に力を入れている。全住民に関心をもち、全住民に協力して進める必要があり、またその過程が連帯感や達成感へつながるもので、もやい精神の高揚になると考えられます。

館報については、事柄の切り口を色々考えて記事にすれば、同じ事業であっても活発なものである等、非常に参考になる意見が出されました。今後の製作上に活用していきたいと思ひます。

「健康増進のために」

酸っぱい

梅干しが

疲れを追い出す。

バテて食欲がないときは、胃酸の分泌をよくして、消化を助けてくれる梅干しや酢、レモンなどの酸味をとるようによいでしょう。丸くて赤い梅干しを思い浮べただけで、口の中に唾液が湧き出る梅干し……。酸味の主成分のクエン酸が胃液の分泌を促したり、胆汁酸と一緒に抗菌パワーを発揮したり

と、食中毒が心配な季節には、特にたのしい存在です。唯一、梅干しの欠点は塩分の多いことです。一個あたりおよそ12〜15gの塩分が含まれています。酸味と塩分とが一緒に含まれているため、実際の塩分量より強く感じるのです。これを利用して梅干しを調味料感覚で使ってみてはいかがでしょう。たたいた梅干しの果肉を和え物にしたり、ドレッシングに加えると、食がすすみ、スタミナをつけられる原動力になります。

町活性化委員会 「町の未来像を求めて」



地域おこしグループとの交流会

平成八年三月に発足した町活性化推進委員男性十二名、女性六名、計十八名は町民参加をもつて本町の活性化を目指し、年間の定例会の他に、研究テーマを設定し、数々の活動に取り組んでいます。



私も会の一員として初年度は、会合や先ずは地元からの町内探訪に参加し新ためて本町を知る機会を得ました。また、今年三月には大分への視察も含め、互いの類似点や、問題点など住民のための町づくりへの意欲、または将来像を考えつ

読書感想文 「地球がおこった」を読んで

津奈木小6年 江口祐美子

私は一度だけ防災センターで震度7というゆれを体験したことがあります。だから、一九九五年一月十七日に起きた地震の恐ろしさは、本からも体験からもよく分かります。本に出てくるかおるのお母さんは、この地震で柱にはさまれてしまいました。しかしお父さんは町の消防団長。町の人を助けるため役所へ行つてしまいました。私がかおるのお父さんの立場だったら「妻が柱にはさまれているんです」と言っていたかもしれません。しかしその言葉を口にすれば町の人達からの信用をなくすかもしれません。やはり、消防団長という大事な役を持っているからには、町の人に目を向ける

つそれぞれを学び帰ってきました。一方では津奈木町地域おこしグループ、農漁協や商工会との交流会も実施され、活動中に、持ち悩んでいる現状と問題点やこれからの方向性についての意見交換は大いに実のある話を聞くことが出来たとまじいながらの任期半ば、住みたい町に一步前進しそうです。川上美代子記

ければならないでしょう。かおるもおかおるのお母さんも本当は淋しかっただろうなあと思います。そういう二人を助けてくれたのはボランティアをしているガリーさんでした。私は優しい人だと感じただけに、外国人というだけでひどい事を言う日本人がいたことにむっとしました。たくさんの人を助けたのになぜそんなことを言われなといけないのでしょうか。ガリーさんの心は傷ついたにちがいないと思うと悲しくなりました。この本を通して私はボランティアについていろいろ知ることができました。みんなを助けること、日本人だけでなくみんな仲良く助け合つていくことが必要だということ。地震という方法で地球がおこったのは、きっとみんなに助け合う心をなくさないでと地球が人間に言いたかったんだと思いました。